

飼料米で水田の維持管理と地域内資源循環を目指す！

－農林水産技術センターと農業改良普及センターが課題に挑戦－

福知山市三岳地区で、「飼料米導入による中山間地域の農地管理システムの構築」をテーマに平成22年度のタスクチーム活動を開始しました。

水田の維持管理に「飼料米」を取り入れて、より省力的で低コストな管理技術を実証するとともに、収穫した飼料米を市内の養鶏場に提供し、水田には鶏ふん堆肥を還元して「地域内資源循環」を目指すものです。当センターは水田での鶏ふん堆肥の効果などを把握し、最適な施用方法を検討します。



飼料米生産予定の水田（福知山市三岳地区）で現地確認

農家で牛の受精卵を採取しています

4月5日からの5日間、南丹地域1か所、中丹地域2か所、丹後地域2か所で、各家畜保健衛生所の協力を得て、畜産農家の優良な乳用牛2頭、肉用牛3頭の採胚を行いました。採取した受精卵81個のうち正常胚は52個で、14個を受卵牛に移植し、24個を凍結保存しました。今年度も昨年度(3地域延べ24か所)に引き続き、畜産農家の要望に応えられるよう優良牛の改良増殖に努めます。



農家で肉用牛の受精卵を採取します



バイオカウライナーの中で
受精卵のグレード判定や凍結を行います

レンタカウの放牧が始まる！

今月、当センターの牛を地域に貸し出すレンタカウの放牧が、舞鶴市で始まりました。今年は、昨年までレンタカウの放牧に取り組んできた8地域のうち2地域で畜産農家の牛(サポートカウ)が放牧され、より地域に密着した取り組みが行われる予定です。当センターでは、耕作放棄地の景観保全、獣害防止など多面的な効果が期待できる牛の放牧を推進するため、「放牧の入門コース」としてレンタカウを貸し出すなど、地域再生の取り組みを支援していきます。



雨の中、地域の人に歓迎される2頭のレンタカウ

畜産センター
碓高原牧場

ふれあい広場オープン！

4月13日、春を待ちわびていたミニチュアホース、ヒツジ、ヤギ、ウサギが、畜舎からふれあい広場に移りました。引っ越しを手伝ってくれた地元の保育園児15名は、家畜とのふれあいを存分に楽しみ、ヒツジやヤギの親子は、ふれあい広場で元気に走り回ったり草を食べたり、4か月ぶりの放牧を満喫していました。



ヤギの子かわいい！



待ちに待った放牧

畜産センター
碓高原牧場

「畜産センター方式」畜産環境保全施設の管理指導を実施

当センターでは、低コストの家畜糞尿処理施設を開発するとともに、平成16年度からは、農家の経営規模に合わせた施設を設計し、普及に努めています。

当センターの設計に基づき設置された「畜産センター方式」の汚水処理、堆肥化、脱臭の施設は、現在、府内に24か所を数え、各施設の適切な管理指導も重要な業務となっています。



汚水処理施設(平成16年設置)の運転管理状況を把握

酪農家の経営向上を支援！

－乳用育成牛21頭を導入－

今月、府内の酪農家から乳用子牛(ホルスタイン種19頭、ジャージー種2頭)を導入しました。子牛は放牧をする管理により、胃袋が大きく、足腰が強い牛に育て、長く牛乳が生産できる牛に育成します。また、受精卵移植により、収入増が期待できる和牛(黒毛和種)を受胎させ、導入元の酪農家に譲渡する予定です。



到着後、元気に飼料を食べる子牛たち

畜産センター
碓高原牧場

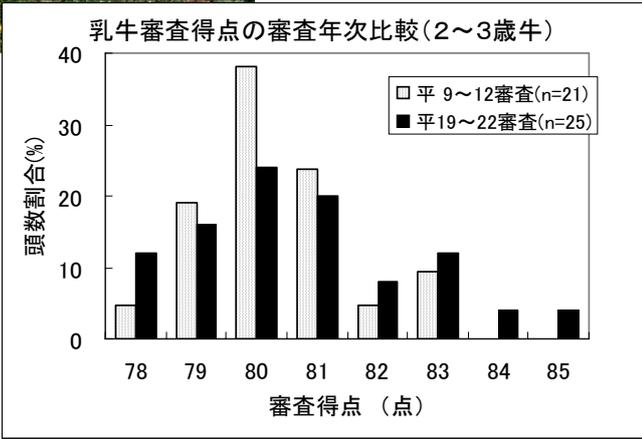
乳牛の体型、乳房の改良進む

—牛群審査（体型審査）を受審—

当センターでは、毎年、日本ホルスタイン登録協会の体型審査を受けています。4月20日の体型審査では、審査員から乳牛の大きさや乳牛らしさに富むとの高い評価を受けました。ここ10年間で、審査得点82点以上の高得点牛の割合が約2倍となり、着実に改良は進んでいます。引き続き、審査結果を改良に活かし、優秀な乳牛受精卵の供給を通じて酪農経営を支援することとしています。



当所最高得点のレグラス号
(87点(6歳))



近年、2~3歳牛の約3割は82点以上の高得点

高校新生が酪農を学ぶ

4月27日、綾部高校農業科1年生16名の校外研修を当センターで実施しました。この研修は、実習体験をとおして実践的な知識・技術を習得し、高校での学習や将来の進路選択に対する意識を高めるために行われているものです。今回は、口蹄疫防疫に万全を期するため乳牛との接触を避け、バターなどの乳製品作りを行うなど、乳牛のすばらしさや酪農への理解を深めてもらいました。



牛の体の仕組みについて職員が説明



バター作りの実習